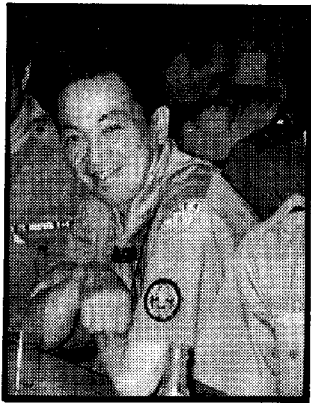


青春の瞳

稲葉睦美氏 逝く

ゴールデンアックスカラーチームに送られて



大和第6団育成会長、日本連盟リーダートレーナー、県央地区コミッショナー、元県副コミッショナーの稲葉睦美氏が10月17日61年の生涯を閉じました。

氏はその1週間前まで、風邪気味の体をおしながら懐かしの森の山中野営場で

開設されたウッドバッジ研修所シニア課程の所長として奉仕し、葉で熱を抑えながらスカウトの道とリーダーシップを説き続けたといわれ、急逝は信じがたいことでした。

氏は昭和6年東京に生まれ、昭和24年から我が国スカウト運動の大先達中村知氏を師と仰ぎ、東京第27隊の指導者としてこの道を歩み始めながら、歯科医としての生活と研究の場を大和に選んで以来、県央地域にスカウト運動を根づかせました。

また、ゴールデンアックストレーニング：GATの名で全国に知られたシニアスカウトの集合訓練体系を創設し、若者の瞳を未来に向けさせながら、日本ジャンボリーなどの大会を盛り上げたカラーチームを生み育て、またフィリピンへの数次の派遣団を率い、ケソンの連盟と神奈川連盟との兄弟連盟の縁組を果たすなど、歴史的な足跡を残しました。

さらに指導者訓練では、ウッドバッジ研修所シニア課程の所長として豊富な体験と理念に基づく奉仕を重ね、また、日本連盟が制作した名作「少年よ太陽のように」ほかの広報映画には、シナリオにも参画して地元地区のスカウトや指導者、育成者とともに自らも出演するなど神奈川のスカウトのアピールに努め、その映像は不朽のものとなりました。

学校五日制も実施され、心の豊かさとスケールの大きい躍動的な活動に社会の期待が集まってきたいま、「青春の瞳」を輝かしながら創始者の理想を語り、「スカウトを信頼する隊長」を行動で示した稲葉氏を失ったことは、日本のスカウト運動にとっても大きな痛手です。いまは、氏の情熱と薫陶を受け継ぐことが指導者に遺された使命となりました。そのことを誓い、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

〈合 掌〉



【写真】11月22日大和市保険福祉センターで行われた県央地区・湘北地区共催の「稲葉睦美先生を偲ぶ会」には県内外から約400人が集まりました。

遺稿 『自然』

美しい自然 春には華麗な花を咲かせ
夏には灼熱の太陽を輝かせて
肌をこがし 丈夫な体をつくってくれる
秋になれば色とりどりの紅葉の山々、
そして冬になればあたり一面の銀世界
神様は私達にそのような大自然を与えて
下さった。

私達は時にはその美しさをうたい、そして
ある時には大自然の猛威に挑戦しながら
自らをきたえ、たくましく成長して行く。
海の香は少年の日のたのしかった思い出と、

世界の広さを思わせ

母なる大地は私達に食を与えてくれた。

ありがとう自然 ありがとう神様

私達はいつまでも与えられたものを大切にして

常に感謝の心をもちつづけながら

豊かな心を養ってゆくでしょう

〈この詩は、稲葉氏が最後に所長を務めた研修所のノートに書かれたもので、フィールドでのスカウト活動をもっとも大切にされた創始者ベーデン・パウエル卿の理想に生きる喜びにあふれています。夜話かスカウツオウンのために書いたものと思われまます〉